

子育ての言葉遣い・コミュニケーション

“コミュニケーションを大切にしましょう”などコミュニケーションという言葉はよく使われます。その意味は？と問うと…「お互いの理解」「信頼関係作り」とか「言葉遣い」など、いろいろと出てきます。しかし、これらはコミュニケーションの目的や方法です。

本来の意味は「伝達」です。お互いの思いや考えを相手に伝えることがコミュニケーションです。「伝達」が上手くできることで、お互いの理解が深まり信頼関係が生まれたりします。逆に、上手くできないとお互いの関係を気まずいものにすることもあります。

そして、その方法には、言葉(言語)と、表情や態度・アイコンタクト・ジェスチャー(非言語)などがあります。

無用な争いを避けるため、つまり自己防衛のための必要最低限のコミュニケーションが「礼儀」です。

「礼儀」には、身だしなみや順序(上座や下座など)、挨拶などがあります。

そして、この挨拶の「挨拶」も「挨拶」にも「間を埋める、近寄る」という意味があります。つまり、挨拶の目的はお互いの距離を近くするということです。

子どもが近所の人に出会った時、快活に「おはようございます」「こんにちは」と言うことで、お互いの距離が縮まり、何かがあった時に助け合うということに繋がります。「礼儀正しいわね」と可愛がられることで、子どもの心の成長に重要な「認められ感」が強くなり、自信を持ち積極的な人格形成が促進されます。

幼少期にわざと汚い言葉を使うことがあります。それは「そんな言葉は使ってはいけません」と親に関わってもらいたい時期だからです。ですから、注意はしても必要以上の罰を与える必要はありません。また、思春期には挨拶自体をしたがらず、周りにケンカを売っているようなこともあります。「ざけんなよ」「バカやろう」「ブチ切れた」など濁点の付いた言葉遣いを好むのは成長ホルモンが分泌される時期だからとの説もあります。注意をするよりも「成長してるんだな」と思って「どうしたの？」と気持ち聴く方が適切な対応ですね。

コミュニケーション…実は言葉よりも態度や表情の方に本音が表れます。

親としては、言葉に惑わされることなく、しっかりと表情や態度を観察することが大切です。ふさぎ込んだ表情で「なんでもない」と言っても、それは何かあったというサインです。いきなり「ちゃんと言いなさい」などの追求はいけませんが、見守って不調が1週間以上続くようなら向き合って話を聴いて下さいね。

そして、何よりもまず親が礼儀・挨拶の見本となるようにしてくださいね。